

自ら舵を取れ 起業家精神を育む学園

学校法人根津育英会武蔵学園が運営する武蔵高等学校中学校と武蔵大学は創設以来、「東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物」「世界に雄飛するにたえる人物」「自ら調べ自ら考える力ある人物」を建学の三理想として掲げてきた。日本初の私立7年制旧制高等学校として発足して

から100年超、チャレンジ精神を大切にする教育方針は現代のアントレプレナーシップ（起業家精神）に通じるものがある。杉山剛士・武蔵高等学校中学校校長と高橋德行・武蔵大学学長に、飛躍の礎となるリベラルアーツ&サイエンス教育や視野を広げるグローバル教育について話を聞いた。



武蔵大学 学長
高橋 德行氏

1980年慶応義塾大学経済学部卒業。米国バブソン大学経営大学院修了。国民生活金融公庫（現：日本政策金融公庫）総合研究所の主席研究員を経て、2003年武蔵大学着任。専門はアントレプレナーシップ。22年4月学長に就任。

「『建学の三理想』で『自ら調べ自ら考える力ある人物』を掲げているが、最近は調べること自体容易ではない。フェイクが氾濫しているからだ。だからこそ、得た情報を自分の頭で考え抜くことが大切だ。さらに生徒たちには自調自考の先に自動自責があると話している。自らの思考に基づいて発言や行動をし、その結果に責任を負える人物になってほしい。行動を称賛されるだけでなく、同調圧力が強い日本社会では周囲から批判や反発を招くことも多いだろう。しかし、武蔵では『動いてみよう』と背中を押す。周囲とぶつかった時は自らの信念を貫くだけでなく、相手の立場に立つて時には引く柔軟性も必要だ。失敗に気づいた時は『間違っていた』と潔く認めればよい。こうしたこと全てが行動によって得られる学びだ」

「武蔵高校OBの内海州史セガ社長は生徒向け講演で『子供のころから落ち着きがなく多動だった』と話していた。けれど、それゆえに先導的な行動が、周囲の平均の半分にも満たない水準だ。そして起業家を持たない人へのアンケートでは『自分の周囲に関心を持たない』『他者を巻き込んで仕事をしたい経験がない』といった回答が目立つ。これは憂慮すべき状況だ。武蔵大学では学生に失敗を恐れず挑戦し、ネットワークを広げ、他者を巻き込んで事を成す能力を高めてほしいと考えている」

「そうした思いから、起業家と直接対話できる講座を設けている。大学の単位となる正規授業の中でさまざまなタイプの起業家を招き授業をしてもらい、意見交換する。そこから学び取ってほしいことは不確実性と向き合う力とは何かである。さらにグローバルな視点でも経験し世界を飛び回り、多くの人と出会い、多様なアイデアを吸収したと語っていた。武蔵はこうした個性を尊重する。同じくOBの瀬戸欣哉（LEE）社長は『武蔵で学んだのは楽な後部座席に座らず、自ら覚悟をもつてハンドルの握り運転席に座り続けること』と語っていた。これも行動と責任を重んじる武蔵の校風で培われた信念だろう」

「グローバルな視野も身に付けてほしい。中3では独仏中韓から選ぶ第2外国語の授業を必須としているし、高2の終わりから高3の初めにかけて海外提携校で現地語の授業を受ける国外研修も実施しており、累計約5000人が参加した。渡航費は同窓会の寄付で賄っている。また他校生も参加している英語で科学を学ぶREDプログラムも好評だ。毎年5人程度は卒業後に海外大学に直接進学するようになってきた。多彩なグローバル教育も起業家精神と親和性が高いと思っている」

不確実な時代でも生き抜ける力を



武蔵高等学校中学校 校長
杉山 剛士氏

1976年武蔵高等学校卒業。81年東京大学教育学部教育学科卒業。83年同大学院教育学研究科修士課程修了。専攻は教育社会学。埼玉県教育局文教政策室長、埼玉県立熊谷西高等学校長、埼玉県教育局高校教育指導課長、埼玉県立浦和高等学校長を経て2019年4月より現職。

「『建学の三理想』で『自ら調べ自ら考える力ある人物』を掲げているが、最近は調べること自体容易ではない。フェイクが氾濫しているからだ。だからこそ、得た情報を自分の頭で考え抜くことが大切だ。さらに生徒たちには自調自考の先に自動自責があると話している。自らの思考に基づいて発言や行動をし、その結果に責任を負える人物になってほしい。行動を称賛されるだけでなく、同調圧力が強い日本社会では周囲から批判や反発を招くことも多いだろう。しかし、武蔵では『動いてみよう』と背中を押す。周囲とぶつかった時は自らの信念を貫くだけでなく、相手の立場に立つて時には引く柔軟性も必要だ。失敗に気づいた時は『間違っていた』と潔く認めればよい。こうしたこと全てが行動によって得られる学びだ」

「武蔵高校OBの内海州史セガ社長は生徒向け講演で『子供のころから落ち着きがなく多動だった』と話していた。けれど、それゆえに先導的な行動が、周囲の平均の半分にも満たない水準だ。そして起業家を持たない人へのアンケートでは『自分の周囲に関心を持たない』『他者を巻き込んで仕事をしたい経験がない』といった回答が目立つ。これは憂慮すべき状況だ。武蔵大学では学生に失敗を恐れず挑戦し、ネットワークを広げ、他者を巻き込んで事を成す能力を高めてほしいと考えている」

「そうした思いから、起業家と直接対話できる講座を設けている。大学の単位となる正規授業の中でさまざまなタイプの起業家を招き授業をもらい、意見交換する。そこから学び取ってほしいことは不確実性と向き合う力とは何かである。さらにグローバルな視点でも経験し世界を飛び回り、多くの人と出会い、多様なアイデアを吸収したと語っていた。武蔵はこうした個性を尊重する。同じくOBの瀬戸欣哉（LEE）社長は『武蔵で学んだのは楽な後部座席に座らず、自ら覚悟をもつてハンドルの握り運転席に座り続けること』と語っていた。これも行動と責任を重んじる武蔵の校風で培われた信念だろう」

「グローバルな視野も身に付けてほしい。中3では独仏中韓から選ぶ第2外国語の授業を必須としているし、高2の終わりから高3の初めにかけて海外提携校で現地語の授業を受ける国外研修も実施しており、累計約5000人が参加した。渡航費は同窓会の寄付で賄っている。また他校生も参加している英語で科学を学ぶREDプログラムも好評だ。毎年5人程度は卒業後に海外大学に直接進学するようになってきた。多彩なグローバル教育も起業家精神と親和性が高いと思っている」

自調自考の先、行動して責任を負う

武蔵を巣立ったチャレンジャーたち

武蔵大学

海洋ごみ回収をIT使い可視化

NPO法人クリーンオーシャンアンサンブル 代表理事
江川 裕基氏



大学時代の旅先で目にした光景が、ごみ問題への関心の端緒だった。その後、青年海外協力隊で赴任した西アフリカのブルキナファソでもごみ処分問題に携わった。帰国後は海洋ごみ問題への関心が強まり、NPO法人を設立。2020年から香川県小豆島の内海漁協から協力を得ることができ、小豆島を拠点に海洋ごみ回収技術開発、再資源化、回収の定量化・分析に取り組んでいる。回収量は累計2t超、再資源化量は400kgに達した。食物連鎖への悪影響が懸念されるマイクロプラスチック回収にも取り組んでいる。回収画像、位置情報、ごみの種類などのデータを蓄積し、可視化する「海洋ごみMAP」を立ち上げ、アプリも制作。

武蔵大ではやりたいことを否定されたことがなかった。インドに約3カ月滞在した時も、ゼミの担当教授は「オンラインで報告すれば休学扱いにしない」と言ってくれた。その時にできたインド人の友人が、今は仕事のパートナーだ。武蔵の柔軟さに感謝している。

武蔵大学

最前線で道を切り拓き続ける

ブシロード 代表取締役社長
木谷 高明氏



幼少期から歴史に魅了され、自らの信念で道を切り拓（ひら）いた偉人たちの力強さに憧れたことが、起業の原点だ。武蔵大学卒業後は証券会社に入社し、10年間経験を積んだ。その後、キャラクタービジネス、同人誌即売会の開催を軸とするブロッコリーを起業した。ブロッコリー退任後は、誰もが楽しみながらコミュニティを築けるカードゲーム業界で世界一を目指し、2007年にブシロードを立ち上げた。メインのカードゲーム事業のほかキャラクターを活用した映像や音楽事業などにも業容を拡大し、東証グロース市場に上場した。海外売上高比率は23%で、今後も人口が増加するアジア圏などを中心にグローバル市場の開拓を進める。

武蔵大学の「自らの道を切り拓くために教養を学ぶ」という理念は、今も私の生活の中で生きている。武蔵にはこれからも、学生一人ひとりが自分の興味や将来の目標に合わせて学べる環境を提供し続けてほしいと願っている。

武蔵高等学校

ユニークであることがクール

WAND 代表取締役社長
黒崎 悠一氏



2014年に東大文科二類に入学、香港大学、米ハーバード大学に短期留学した。香港ではライバーと呼ばれるSNS上のクリエイターが活躍しており、帰国後にこうした人々をマネジメントするメゾワンを起業した。1年半で登録ライバーは約600人まで増えたが、外資系投資銀行に就職するためメゾワンは売却した。しかし自分の会社が成長し、収益を得る醍醐味が忘れられず、約1年後に退職し21年にショート動画マーケティング支援をおこなうWANDを立ち上げた。顧客企業とクリエイターをマッチングさせるのが主業務で、登録クリエイターは1万人に達した。24年に東証プライム上場のファンコミュニケーションズ傘下に入り、今はWAND社長と親会社の執行役員を兼務している。

武蔵は多様性を尊重し「ユニークさがクール」という校風だ。今の仕事も人と違うことでマネタイズできる世界で、武蔵での体験が生きている。武蔵高校を卒業した兄もトキウムという会社を起業し社長をしている。

武蔵大学

発信力を磨いた少人数の授業

Saleshub 事業開発担当執行役員
竹田 康一郎氏



新卒で入社した企業で6年間勤務し、営業年間成績1位を獲得。独立を模索していた時に、旧知のSaleshub代表・江田学氏と再会した。事業をスタートして3年目を迎えていたSaleshubの顧客紹介マッチングモデルに可能性を感じ、7人目のメンバーとして参画した。営業アポイントを望むクライアントと、そのアポイント先を紹介可能な第三者とをつなぐ仕組みで、共感した個人が自身のつながりを紹介する。現在、約5万人の「サポーター」が登録されており、紹介時にはご協力金を受け取る仕組みとなっている。こうした既存事業の推進に加えて、今は新規事業開発チームも率いている。

武蔵大学では1年次からゼミに参加。ゼミ以外にも、10～15人ほどの少人数授業が多く、自分の考えを言葉にして伝える機会が多かったことが、今の仕事にも自然と生きている。武蔵では常に主体的であることが求められ、発信力が養われたと思う。

武蔵高等学校

食の現場から、海を守る活動へ

一般社団法人 日本サステナブルシーフード協会 代表理事
鈴木 允氏



武蔵高校1年の時の農業実習がきっかけで、食糧生産に関心を持った。京都大学在籍中にナショナルジオグラフィック誌の『世界の漁業が危うい』という特集を読んで、漁業による乱獲の問題を知り、ライフワークにしている。漁師見習い、築地のセリ人、国際NPO（非営利組織）スタッフを経て、2019年に独立し、持続可能な漁業をサポートする事業を開始。21年には日本サステナブルシーフード協会を設立した。オンライン講座「おさかな小学校」を通じて、消費者や未来を担う子どもたちに、海や漁業の魅力、海洋環境問題について伝えている。

武蔵中学高校での6年間は、山岳部での登山、中国での国外研修、日本海重油流出事故のボランティアなど、学校の内外でさまざまな挑戦をした。モンゴル旅行をした教員たちや自転車で北海道を一周した友人など、いろいろなことにチャレンジする人たちに囲まれ、刺激ももらったことが、現在の活動につながっている。

武蔵高等学校

卓球部仲間と訪問介護に新風

ケアリッツ・アンド・パートナーズ 代表取締役社長
宮本 剛宏氏



慶応大学卒業後はITコンサルティング会社に就職。2008年の起業の際に介護業界を選択した理由は1兆円以上の市場規模を見込み、後発でもリーディングカンパニーになれると判断したからだ。IT活用で生産性の高い訪問介護サービスを実現し、24年度に売上高200億円超にまで成長した。パート比率が高い業界だが、当社は約3500人いるヘルパーのほぼ全員が正社員で、給与水準もトップレベルだ。平均年齢35歳のヘルパーはスマホアプリを利用し作業内容などを本部に報告、請求業務なども効率化した。分社化したシステム開発会社も年商が70億円に達した。

合理的思考を身に付けたのは武蔵中学高校での6年間で。監督もコーチもない状況で卓球部を率い、効果的な練習メニューを自ら考え実力を上げた。負けた相手には試合後に練習方法を聞いたこともある。創業メンバーもこの卓球部の同級生と後輩が中心で、現役員4人全員が武蔵卓球部OBだ。

広告



武蔵大学



武蔵高等学校中学校
Musashi High School and Junior High School

学校法人 根津育英会武蔵学園

〒176-8533 東京都練馬区豊玉上1-26-1

池袋より6分、江古田駅下車

オープンキャンパス

6/15 (日) 7/26 (土) 8/2 (土) 8/3 (日)

秋のミニオープンキャンパス

11/15 (土)

学校説明会

6/14 (土)

校内見学会

10/5 (日)

入試説明会

10/18 (土)

企画・制作＝日本経済新聞社
Nブランドスタジオ